

「話すこと・聞くこと」部会」

第二学年 国語科学習指導案

日時 令和三年九月十七日（金）

場所 高山市立国府中学校（二年A組教室）

学級 二年A組（男子十二名・女子十五名 計二十七名）

授業者 新井 良太

一、単元名「みんなはどう考える？」 教材名「立場を尊重して話し合おう」

二、単元および教材について

本単元は、「話すこと・聞くこと」領域の学習である。立場と根拠を明確にした論理的な表現のしかたや、互いの立場を尊重しながら話し合う力を身に付けさせていきたい。そのために、単元を通して行う言語活動として、「討論」を設定する。討論は、それぞれの立場から考えを述べ、互いの考えの違いなどを基にして論じ合うものである。異なる立場の聞き手が納得できる根拠を検討することや、自分の意見に固執せず互いの立場や考えを尊重し合うことが必要となる。これらの力を、討論を通して身に付けさせていきたい。

三、生徒の実態

《意識調査》 本学級二十七名中二十五名で実施

Q1. 国語の学習で得意な領域は何ですか。 A. 話すこと・聞くこと ↓ 八名（三十二％）

Q2. 国語の学習で苦手な領域は何ですか。 A. 話すこと・聞くこと ↓ 三名（十二％）

「話すこと・聞くことが得意」と回答した生徒が、その理由として最も多く挙げたのが「自分の意見が伝わると嬉しいから」というものであった。また、苦手と回答した生徒の理由は「どの構成で話したら伝わるのかを考えることが難しい」と挙げていた。どちらも相手意識をもつ中で、喜びを感じたり、困難さを感じたりしていることが分かる。

【話すこと・聞くこと前単元の様子より】

話す場に向けて、インターネットを用いて必要な情報を集めることはできる。しかし、異なる立場や考えを想定しながら情報を検討することや、複数の情報を集めて内容を検討することには弱さがみられた。

話す場面では、端的にまとめて話することはできる。しかし、聞き手の反応に応じて、予定していた内容を変更して話したり、相手に応じて論の展開に工夫を凝らしたりすることには弱さがみられる。

【学級活動での話し合いにおける様子より】

学級活動において話し合う場面では、異なる立場の意見を踏まえて、その考えについて検討し直したり、新たな提案をしたりする生徒は少ない。

四、「生きてはたらく言語能力」の育成について

【知識及び技能】（2）情報の扱い方に関する事項

（ア）意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力、判断力、表現力等】 A 話すこと・聞くこと（1）

（イ）自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。

（オ）互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

この指導事項について「討論」の特徴を踏まえて、目指す生徒の姿を次のように具体化した。

「生きてはたらく言語能力」の具体化

【知識及び技能】(2) 情報の扱い方に関する事項

(ア) 自分の考えと同じ立場や異なる立場の人、または討論の進行状況などに応じて、適切な根拠が異なることを理解し、根拠を検討することができる。

【思考力、判断力、表現力等】A 話すこと・聞くこと (1)

(イ) 聞き手に自分の考えを納得してもらえるように、相手や討論の進行状況などに応じて、示す根拠や論理の展開を検討して話すことができる。

(オ) 相手の立場や意見が出された背景について理解しながら話し合い、考えの共通点や相違点を見出し、新たな提案をしたりして討論を進めることができる。

討論は進行状況に応じて話す内容を即時に検討しなければならない。そのためには、事前の準備で幅広く準備することが求められる。根拠の示し方や、相手を尊重した話し方に重点を置いていきたい。

五、研究に関わって

研究内容 (1) 指導計画の工夫

②学ぶ魅力・必然性のある教材開発

討論会を行うに当たり、生徒にとって討論をする必然性を感じられる単元構成が必要だと考えた。討論は、異なる立場の仲間と話し合うことで、物事を多角的に捉え直すことができる話し合いである。そこで、実際に社会で話題となっている「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」を扱うことにした。この開催については、社会においても既に様々な立場から意見が述べられてきた問題である。「あちらを立てればこちらが立たず」という問題であり、答えを出すことは難しい。これからの社会の担い手である生徒が、実際の社会で問題とされているテーマについて討論をすることは、生徒にとって「社会の一員」としての自覚が生まれ魅力的なテーマになると考えている。

研究内容 (2) 指導・援助の工夫

①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

単元の導入において、生徒にモデルとなる討論の様子を示す。これにより、全員が本単元で目指す姿を思い描くことができるようにする。そして目標となる姿に対して、自分の現在の姿を比較することを通して、自分が身に付けなくてはならない力を意識できるようにしていきたいと考えている。

研究内容 (3) 評価の工夫

生徒自身が五十分間での自己の高まりを実感することができる場の位置付け

単位時間の終末で、目指す姿に対する振り返りの時間を設定する。本時は、グループでの振り返りと、個人での振り返りの二つを設定する。本時の振り返りの視点を、「①立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる事ができたか」「②互いの立場や考えを尊重しながら話し合うことができたか」の二点とする。まずは、討論を行ったグループで、仲間の話し方に対して意見を交流する。この際に、タブレットで録画した討論会の動画を用いて交流を行うことで、事実を基にした交流となるようにする。仲間にも認めてもらえることで、自分では気付いていない成果に気付くことができ、自己の高まりが実感できる。逆に、自分では手応えがあっても、仲間に通じていなければ課題点であることに気付くことができる。その後、個人での振り返りを行い、成果と課題をまとめる。生徒が課題点として挙げていても、具体的に次の目標を抱くことができなければ、教師が本時による高まりとして認めることで、生徒が自己の高まりを感じられるようにしていきたい。

六 単元構想図 2年生「立場を尊重して話し合おう」(全6時間)

【第2学年【思考力・判断力・表現力等】
A 話すこと・聞くこと(1)オ】
互いの立場や考えを尊重しながら話し合い結論を導くために考えをまとめること。

【本単元で身に付けたい資質・能力の系統】
小高：互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
1年：話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。
3年：進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

【「話すこと・聞くこと」における
子どもの実態】
学級活動において話し合う場面では、異なる立場の意見に対して、その考えについて検討し直したり、新たな提案をしたりする生徒は少ない。最初から自分のもっていた意見を話すだけで終わってしまう現状がある。

また、自分の意見を支える根拠として、最初に見つけた一つの情報を頼りにしてしまい、異なる立場を想定して検討したり、複数の情報を用いて検討したりすることには弱さがみられる現状がある。

【育成すべき資質・能力とのつながり】
討論では、自分の考えを話していくことになる。この時に、どのような根拠を用いて話していくことが最も相手に自分の考えが伝わるのかを検討することが必要となる。自分の考えを相手に伝わるように表現していく資質・能力とつながっていくと考えている。また、討論において、相手の考えが分からない場合も、聞き返すことが求められる。どこまでが理解できたのかを相手に伝えることでよりよい討論を行うことが可能となる。「分かったふり」をしないことも分からなさを表現していく資質・能力とつながると考えている。

【単元の言語活動】
討論会を通して、自分の考えの幅を広げよう。

【本単元の評価規準】

<知識・技能> 自分の考えを裏付けるための適切な根拠を検討している。	<思考力・判断力・表現力>◎ 考えを適切な根拠を用いて話したり、互いの立場や考えを尊重しながら話し合ったりしている。	<主体的に学習に取り組む態度> 複数の資料から根拠の検討をしたり、仲間の発言に対して反応したり、質問したりして話し合いを進めている。
---------------------------------------	---	---

【国府中の生徒に育成すべき資質・能力】
自分の思いや考え、分からなさを表現していく力

■立場を尊重して話し合う。

第3時(本時)

【ねらい】
「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は開催してよかったのか」のテーマで討論を行い、グループや個人でふり返ることを通して、適切な根拠とともに意見を述べたり、互いの立場や考えを尊重しながら話し合ったりすることができていたのかについて、成果と課題を見つけることができる。

【評価規準】(思・判・表(イ)(オ))
討論で適切な根拠を示したり、互いの立場を尊重しながら話し合ったりして、成果と課題を見つけている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
自分の考えが伝わるように話したり、分からない部分を問い返したりする姿。

第2時

【ねらい】
討論のテーマに対して立場を明らかにして、自分の考えを支える根拠を検討し、考えと根拠をまとめることができる。

【評価規準】(思・判・表(ア))
説得力のある根拠を探したり、反対の立場からの質問や反論を想定したりして必要な情報を収集している。

■学ぶ目的と必然をもつ。

第1時

【ねらい】
よい討論はどんな点で何がよいのかを考えることを通して、単元の見通しをもち、自分の目指す姿を思い描くとともに、討論テーマに対して、広く情報を集めることができる。

【評価規準】(思・判・表(ア))
テーマに対して情報を集め、伝え合う内容を検討している。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
討論で自分の考えを話すために、広く情報を集めて検討する姿。

【単元を貫く課題】
「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は開催してよかったのか」討論会を通して考えを広げよう。

【育成すべき資質・能力に関わる本単元の具体的な姿】
討論において、自分の考えを適切な根拠をもとにして話したり、分からない考えについては問い返したりする姿

第5時

【ねらい】
1回目の討論のふり返りを踏まえ、討論会では、根拠の適切さと、互いの立場や考え方を尊重した話し方が大切になることに気づき、「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は開催してよかったのか」について、2回目の討論会を行うことを通して、適切な根拠とともに意見を述べたり、互いの立場や考えを尊重しながら話し合ったりすることができる。

【評価規準】(思・判・表(イ)(オ))
討論で適切な根拠を示したり、互いの立場を尊重しながら話し合ったりしている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
自分の考えが伝わるように話したり、分からない部分を問い返したりする姿。

第4時

【ねらい】
1回目の討論のふり返りを踏まえ、自分の考えを支える根拠を検討し、考えと根拠をまとめることができる。

【評価規準】(思・判・表(ア))
説得力のある根拠を探したり、反対の立場からの質問や反論を想定したりして必要な情報を収集している。

■授業を振り返り日常に生かす。

第6時

【ねらい】
2回の討論会を踏まえて、討論会における成果や課題などの意見を出し合うことを通して、日常生活のどのような場面で活用できるかを考えることができる。

【評価規準】(思・判・表(イ)(オ))
根拠の示し方や、相手の立場を尊重した話し方について、自分自身の成果と課題をふり返っている。

【資質・能力に関わる本時の具体的な姿】
仲間の意見を聞いたり、自分の意見を伝えたりすることで自分の話し方や聞き方を見つめ直す姿。

【単元末の子どもの意識】
・話し合いをすることによって、他教科の授業や学級活動、部活動のミーティングなどでも今回のような話し合いの方法を取り入れることができそう。
・話し合いをする際には、相手の意見を正しく聞き取ることや、相手に共感しながら聞くことで自分の考えを深めることが必要だ。
・これまでうまく話せないと感じたのは、語彙力の問題だけではなく、話す順序や根拠の検討が足りなかったからだ。

【導入時における子どもの意識】
・よい話し合いの仕方とはどういうことなのだろうか。
・討論は異なる立場の相手を言い負かせばいいのだから、自分の考えが通るように根拠を示していこう。
・討論と普段の話し合いとはどのような違いがあるのだろうか。

七、本時のねらい

「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は開催してよかったのか」のテーマで討論を行い、グループや個人でふり返ることを通して、適切な根拠とともに意見を述べたり、互いの立場や考えを尊重しながら話し合ったりすることができていたのかについて、成果と課題を見つけることができる。

八、本時の展開（三／六）

<p>教師の働きかけ</p>	<p>学習活動</p>	<p>研究内容にかかわって</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、討論テーマについて、自分の考えをもち、考えを支える根拠の適切さを検討してきましたね。 ・自分の考えの幅を広げていく討論にするには、どんなことを大切にしていきたいと思いますか。 ・仲間の話は、立場と根拠の適切さに注意して聞いていきましよう。 ・仲間の根拠を自分の考えに活かしたり、立場が違っても仲間も納得してくれそうな代案を示したりできるかな。 ・討論を通して、自分の考えの幅が広がった部分を話していこう。 ・モデルとの比較をして、自分たちの討論をふり返っていこう。 ・課題に気付けたことは、今日の学習の成果だよな。 ・次回はどんな準備が必要かな。 	<p>◇本時の見通しをもつ。</p> <p>今日の討論では、前回検討した根拠を示して、相手に理解してもらえようように話していけるようにしたいな。また、異なる立場の仲間を否定するのではなく、自分の考えにも通ずる部分がないかを考えながら聞いていきたいな。そして、自分の考えの幅を広げていきたいな。</p> <p>◇今回の討論で意識すべきことを共通理解し、本時の課題を確認する。</p> <p>討論テーマに対して自分の考えの幅を広げるために、「個人課題」を大切にして討論をしよう。</p> <p>《個人課題》</p> <p>①立場を明確にして、適切な根拠とともに意見を述べる。</p> <p>②互いの立場や考えを尊重しながら話し合う。</p> <p>今日は討論の一回目なので、個人課題の①に重点に置いて取り組んでいきたいな。</p> <p>◇グループごとに討論を始め、一人ずつ意見を述べる。</p> <p>私は、「オリンピック・パラリンピック」は開催してよかったと思う。理由は、オリンピックに向けて人生を懸けて練習を重ねてきたアスリートの存在を知ったからだ。重量挙げの三宅選手は今大会を最後に、引退を表明した。選手にとって人生を懸けて挑んできた中で、オリンピックが最後の舞台となったことはよかったと思う。</p> <p>◇立場を意識して、討論する。</p> <p>確かに、飲食業界に携わる方々も人生を懸けていて、今苦しい状況なのはよく分かる。状況を見ながら、その時にできることには取り組んでいくことが大切だと思う。オリンピック・パラリンピック競技大会はこれ以上の延期ができない状況だったので、開催してよかったと思う。飲食業界についても、感染状況が落ち着いたらときに、イベントなどの政策を行っていけばいいと思う……。</p> <p>◇モデルとなる討論との比較をしながら、グループで討論会のふり返しを行い、成果と課題を出し合う。</p> <p>生徒Aさんの発言は、初めの主張にはなかった提案がされていた。その内容は、他の立場の意見を尊重しているものでありよかったと思う。他にも、生徒Bさんは、相手の主張に対して客観的な根拠を示して話していた。</p> <p>◇個人で本時をふり返り、次時への見通しをもつ。</p> <p>今日の討論会では、異なる立場の意見を聞き、その視点からも開催してよかった」と言い切れる根拠を示すことができたことはよかった。しかし、相手の立場を否定する形になってしまい、相手の立場を尊重した話し方になっていなかったという課題が残った。次回の討論では、相手の立場も踏まえた新たな提案ができるようにしていきたい。</p>	<p>研究内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で見たモデルを想起させ、本時の目標となる姿を全員がつかみ、見通しをもてるようにする。 ・小グループを編成し討論を行うことで、全員に話す機会が多く与えられるようにする。 ・根拠を示す際に、必要に応じてタブレットを使用し、資料を提示しながら話すことができるようにする。 <p>研究内容③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論を行う際は、タブレットの録画機能を用いて、討論会の様子を撮影し、終末のふり返りで活用できるようにする。 ・タブレットの動画を活用し、事実を基に成果と課題を出し合えるようにする。 ・教師が、生徒だけでは気付けなかった成果や課題を把握しながら指導をし、グループでのふり返りで提案できるようにする。 ・課題点しか見いだせていない生徒にも、課題に対する改善策を考え、次時への見通しをもてるように指導することで、本時の討論による高まりを実感できるようにする。 <p>評価規準</p> <p>【思・判・表A（イ）（オ）】</p> <p>討論で適切な根拠を示したり、互いの立場を尊重しながら話し合ったりして、成果と課題を見つけている。（発言内容・タブレットの映像）</p>